

R 1 課題・中学 1 年生の部

課題アナウンス原稿

今日は美化委員会から取材した校庭の芝生の話題をお伝えします。私たちの学校の校庭の土は大変固いため芝生がきちんと根づくにはいくつかの工夫が必要です。まず土を20センチほど掘り返してやわらかい土と入れ替えます。そこに砂と肥料を加えてから芝をかぶせます。さらに芝が根づくまでは毎日欠かさず水やりをする必要があります。これだけの手間をかけて美しい緑の芝生が出来上がるのです。

続いて今日の一冊のコーナーです。今日はイギリスのクリスマス・ストーリーをお届けします。
チャールズ・ディケンズ作「クリスマス・キャロル」。

中学 1 年生課題朗読文

①

「僕はクリスマスが来るといつも——イエスさまの誕生日として尊ぶのは別にして、もちろんそれとこれとを区別することはできないけど——それを、ありがたい日だと思うんです。親切と、寛容と、慈善と、喜びの日。一年の長いカレンダーのなかで、この日だけは、みんなが心を一つにして、普段閉じている心の殻を破って楽しく付き合うんです。そして、困っている人たちのことを、別の目的地に向かう赤の他人ではなく、つかのまの人生をともに生きている同じ旅の仲間と考えるんです。だからね、おじさん、銀貨や金貨の一枚が僕のポケットに入るわけじゃないけど、クリスマスは僕のためになるし、これからもそうだと信じています。だから、クリスマス万歳！」(17 ページ)

②

地下の貯蔵庫のドアがバーンと開く音が聞こえました。それから、鎖を引きずっているかのようなその音は次第に大きくなり、一階まで上ってきました。そして、その音は階段を上り、まっすぐにスクルージの部屋のドアのところまでやってきました。

「ばかばかしいわい！」スクルージは言いました。「わしは信じない」
しかし、彼は青ざめました。その音が少しも躊躇なく重たいドアを通り抜け部屋に入ってきたとき、スクルージの目の前に現れたのは幽霊(!)でした。そのとき、消えかけていたロウソクの炎が、まるでこう叫んでいるかのように一瞬激しく燃え上がったのです。

「俺はやつを知っているぞ！マーレイの亡霊だ！」(36-37 ページ)

※課題朗読文の引用については、翻訳者である井原慶一郎氏（鹿児島大学教授）の許可を得ております。

- (1) 課題アナウンス原稿をアナウンスした後、続けて課題朗読作品を朗読して下さい。
- (2) 課題アナウンス原稿には読点はつけてありません。自分の工夫で切ってください。
- (3) 課題朗読文は、学年毎に違います。中学 1 年生は ①②から一つだけ選んでください。
課題朗読文の番号を読む必要はありません。

R1 課題・中学2年生の部

課題アナウンス原稿

今日は美化委員会から取材した校庭の芝生のお話を伝えます。私たちの学校の校庭の土は大変固いため芝生がきちんと根づくにはいくつかの工夫が必要です。まず土を20センチほど掘り返してやわらかい土と入れ替えます。そこに砂と肥料を加えてから芝をかぶせます。さらに芝が根づくまでは毎日欠かさず水やりをする必要があります。これだけの手間をかけて美しい緑の芝生が出来上がるのです。

続いて今日の一冊のコーナーです。今日はイギリスのクリスマス・ストーリーをお届けします。
チャールズ・ディケンズ作「クリスマス・キャロル」。

③

「これは驚いた！」スクルージは、あたりを見まわすと、両手を握りしめて言いました。

「わしはここで育ったんだ。少年時代を過ごした場所だ！」

精霊は穏やかにスクルージを見つめていました。精霊の手はほんの一瞬軽くスクルージの胸に触れただけでしたが、スクルージはまだその優しい感触を感じていました。彼はその景色に漂っている無数の匂いに気づいていました。その一つひとつは、長い間忘れていたたくさんの思い、希望、喜び、不安と結びついていました。

「唇が震えているようだね」精霊は言いました。「君の頬に光るものは何だい？」

スクルージは珍しく声を詰まらせて、ただの吹き出物ですよ、とつぶやきました。(63 ページ)

④

生煮えだったらどうしよう！ 袋から出すときに壊れちゃったらどうしよう！ みんながガチョウに夢中になっていた間に、泥棒が裏庭の塀を越えて入ってきて、プディングを盗んじゃってたらどうしよう！ この最後の事態を想定して、二人のちっちゃなクラチットは顔が真っ青になりました！ ありとあらゆる恐ろしい想像が頭のなかを駆けめぐったのです。

わあい！すごい湯気だ！ プディングが銅釜から取り出されたぞ。洗濯日のような匂いがする！ これは布の匂い。食べ物屋さんとお菓子屋さんが隣同士で、そのまた隣が洗濯屋さんみたいな匂い！ これがプディングなんだ！ 三〇秒ほどしてクラチット夫人が戻ってきました。頬を紅潮させ、誇らしく微笑んでいます。(117-118 ページ)

※課題朗読文の引用については、翻訳者である井原慶一郎氏（鹿児島大学教授）の許可を得ております。

- (1) 課題アナウンス原稿をアナウンスした後、続けて課題朗読作品を朗読して下さい。
- (2) 課題アナウンス原稿には読点はつけてありません。自分の工夫で切ってください。
- (3) 課題朗読文は、学年毎に違います。中学2年生は ③④から一つだけ選んでください。
課題朗読文の番号を読む必要はありません。

R 1 課題・中学3年生の部

課題アナウンス原稿

今日は美化委員会から取材した校庭の芝生の話題をお伝えします。私たちの学校の校庭の土は大変固いため芝生がきちんと根づくにはいくつかの工夫が必要です。まず土を20センチほど掘り返してやわらかい土と入れ替えます。そこに砂と肥料を加えてから芝をかぶせます。さらに芝が根づくまでは毎日欠かさず水やりをする必要があります。これだけの手間をかけて美しい緑の芝生が出来上がるのです。

続いて今日の一冊のコーナーです。今日はイギリスのクリスマス・ストーリーをお届けします。
チャールズ・ディケンズ作「クリスマス・キャロル」。

⑤

「もしお前の心が硬い石ではなく、血が通っているならば、悪意のある流行り言葉を安易に口にするのは慎みなさい。過剰人口とはだれで、どこにそうした人たちがいるのか、わかってから言いなさい。誰が生きるに値して、誰が死んでも構わないとお前が決めるというのかね。天の国から見れば、こうした何百万人という貧しい家庭の子どもに比べて、お前のほうがよっぽど価値がなく、生きるに値しない存在かもしれないのだぞ。それは塵芥（ちりあくた）のなかで、葉の上の虫けらが、飢えた同胞たちに向かって数が多すぎるとつぶやいているようなものなのだ！」

スクルージは精霊の叱責を黙って受け入れ、自分を恥じて身を震わせながら視線を地面に落としました。
(122 ページ)

⑥

霧も出ていません。もやもかかっていません。澄んだ、明るい、気持ちのよい、爽やかな、冷たい朝でした。笛に合わせて思わず踊りたくなるような冷たさです。黄金に輝く太陽の光、この世のものとは思えない美しい空、美味しい新鮮な空気、陽気な鐘の音。ああ、なんと輝かしく、神々しいことでしょう！

「今日は何日だい」スクルージは、日曜日の礼服を着た少年に向かって叫びました。おそらく彼は道草を食ってこの敷地に迷い込んだのでしょう。

「なに？」少年は驚いて不思議そうに答えました。

「今日は何日だい、少年」

「今日だって？ クリスマスにきまってるじゃん」

「クリスマスか！」スクルージは自分自身に言いました。(192-193 ページ)

※課題朗読文⑤⑥の引用については、翻訳者である井原慶一郎氏（鹿児島大学教授）の許可を得ております。

- | |
|---|
| <p>(1) 課題アナウンス原稿をアナウンスした後、続けて課題朗読作品を朗読して下さい。</p> <p>(2) 課題アナウンス原稿には読点をつけてありません。自分の工夫で切ってください。</p> <p>(3) 課題朗読文は、学年毎に違います。中学3年生は ⑤⑥から一つだけ選んでください。
課題朗読文の番号を読む必要はありません。</p> |
|---|